

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	学力向上フォローアップ事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	長期休暇を活用し、補助的な学習支援を通して基礎学力定着と学習意欲の向上を図る事業		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり
	政策	やさしさと思いやりを育み、楽しく学べるまちづくり
	施策	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	全国学力・学習状況調査結果の分析によると、児童の授業時間以外での学習時間が少ないという課題が見られ、学力の定着が十分でない児童への支援及び家庭学習の習慣化が急務となっている。 このため、長期休暇を活用し、補助的な学習支援を通して、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わわせ、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学習支援を行うため、各小学校に教員OB等の指導員を派遣して、補習的な指導を行う。</li> <li>長期休暇等を活用し、1校当たり年間6回以内、1回当たり4時間以内（準備・片づけ時間を含む）で行う。</li> </ul>
事業の対象	市内小学校在籍児童1～6年

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財 源 内 訳	A 事業費 (千円)	416	349	0
	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	416	349	0
B 担当職員数(職員E) (人)	0.05	0.05	0	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	343	336	0	
D 総事業費(A+C) (千円)	759	685	0	
主な事業費用の説明	指導員の賃金・交通費 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策として休校していた期間の授業日数を確保するため、夏休み・冬休み期間短縮により事業実施日確保が困難なため事業を中止とした。			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 実施回数(回)	5校×10回	50	43	0
	2 在籍児童数(人)	葦崎:324、穂坂:66、葦崎北東:360、葦崎北西:164、甘利:381	1,450	1,383	1,295
	3 雇用指導員数(人)		21	22	0
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	全校で事業を実施している。			
	2	児童数は、減少傾向にある。			
	3	各校2～4名の指導員(教員OB)を確保し、支援にあっている。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	延べ参加児童数(人)	4,436	3,216	0
	2	1回当たりの参加児童数(人) <元年度> 参加児童数/回数(人) 3,216人/43回	88.7	74.8	0.0
	3	アンケート結果(%) <元年度> 「勉強が分かるようになった」 「参加して良かった」 肯定的な回答(%)	81.9 88.8	89.7 92.5	0 0
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	プール開設日や図書室利用日に合わせて実施するため、多くの児童が参加している。			
	2	個別指導を行うことで、集中して学習に取り組むことができ、補習授業に合わせて休暇中の宿題を進めることもできている。			
	3	参加児童へのアンケート調査によると、満足度は8割を超えている。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)			
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明) 令和3年度については、新型コロナウイルス感染対策の観点から事業中止の決定をした。来年度以降は、感染症対策・天災や事故などの非常時の対応を考慮する中で、実施時期を夏期休暇期間のみにするなど回数の減少について検討していく。			
過去の改善経過	改善の経過	・平成29年度 単年補助：学力向上フォローアップ事業費委託金(国：1/3 県：2/3) ・平成29年度の効果を受けて、平成30年度は市単独での事業として継続した。しかし、学校側で行う指導員の確保及び実施日数の確保に苦慮している状況であり、教職員の負担が軽減されていない。 また、多くの児童の参加は効果的だが、平常時の職員数ではないため、教職員側としては天災や事故などの非常時の対応に不安を感じている。 令和元年度は、昨年度と同様継続して実施するが、来年度以降は、実施時期を夏期休暇期間のみにするなど回数の減少について検討していく。		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大      - <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
		外部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
改善案	長期休暇を利用して補習学習として定着している。児童にとっては、実施成果があるといえる。指導員の選定については、今後地域人材の活用を含め検討する。			
課長所見	・従来、長期休業中の補習の機会として多くの児童が参加し満足度の高い事業であったが、昨年度、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とされた。 1人1台端末が整備され、今後、自宅でのドリル学習が導入されていくことから、指導員の確保(オンラインによる通勤の不要化)とそれに伴う教員の負担軽減もねらい、学習支援ソフトを活用した個々の習熟度に応じた学力向上のフォローアップとなるよう外部指導員(教員OB・大学生等)による実施方法の検討を行う必要がある。			